

協議会ニュース

67号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1998.3



自然観察会に参加して

(新会員が見た観察会風景)

昨年10月の自然観察指導員講習会に参加して、新しく指導員となられた方に、3回程度自然観察会に参加して、その感想を書いていただきようにお願いしました。文を書くのが苦手な方もあるのに無理な注文をしたものですが、講習会を受けた後少しでも自然観察活動に参加して欲しいという願いと、各地で行われている観察会を新鮮な眼で見たご意見をお聞きしたいという気持ちから依頼したものです。

その結果5名の方から感想文が届けられました。もう少し多くの方の報告を期待していましたが、大半の方から報告されたら1年分の機関誌でもスペースがなかったでしょうから、丁度良かったのかもしれません。

内容からみて、名前を書いても差し支えないようですが、忌憚のない意見を出していただくために匿名にすると約束しましたので、それに従います。

こうしてみると、県下各地では様々な観察会が、様々な形で開かれていることがわかり

ます。対象とする自然は一つでも、指導員によっていろいろな扱いがあり、受け取る側には全く違った印象が得られるもののように思えます。自然観察会で伝わるのは、自然の知識などとともに、指導員の人となりかもしれません。自然に関する知識を教えている場合でも、実際はその人の体験や努力の結果を伝えていると云えます。従って、自然に対する愛情や、自然の良さ大切さを伝えたいという熱心さがあれば、自然に関する知識は十分でなくとも、良い観察会ができるとも思われます。観察指導で最も大切なのは自然に対するその人の思い入れや人柄なのではないだろうか。感想文を読んで、そんなことをふと考えました。

兎も角、各地で多くの個性的な観察会が長く続けられることが大切で、そのための情熱を維持することに私たちの協議会の目的があるように思います。また、感想にもあるように、観察会の参加者を増やす工夫もしなければいけないと思いました。

＊＊＊

＊＊＊

10/26 牧野ヶ池 (参加者12名)

木や木の実、鳥と見て歩いた。落ち葉の下の虫もさがした。紅葉や黄葉のしくみの説明、マント群落の説明もあった。自然観察指導員の講習を受けた様に、「自然を見る」観察会だと思いました。

11/2 段戸裏谷 (例会: 50名)

落ち葉を拾って、木の名前を聞いたり、アオハダやツリバナの実を見たり、ブナ等の木肌を見ながら歩いた。石の説明もあった。私

も手伝って、ゲンノショウコの実のはじけ方や根生葉の説明をして、初心者の方に喜ばれました。

11/9 県民の森 参加者40名

高木典夫先生、三津井宏先生、加藤等次先生が講師をされた。「みかわまきはら」の駅で集合し、風穴まで歩いた。出発前に各々の講師が用意された草や実の説明、古くからの黄葉、紅葉といわれる説明等があり、私には圧倒される様な観察会の始まりでした。

道すがら、陽光に対する葉の運動や生長の仕方、葉や花の落ち方等の説明がありました。昼食後の休憩時間も、身近にあったクサコアカソを使って葉の話、子供さんが捕らえたバッタの話がありました。「知る」ことは、より深く自然を好きになることだと思いました。

11/16 豊田市自然観察の森（哺乳類の観察）

大竹 勝先生が講師をされた。食痕や糞を見たり。足跡の見方を教えて頂いた。屋外に出て、モグラのトンネルを見た。あちこちにあるのに、今まで気が付かなかった。コウベモグラやアズマモグラの名も初めて聞きました。虫や動物は、私には馴染みのあまりない分野です。観察会が催される時には出席したいと思います。

12/ 7 大ケ蔵連（小原村）（例会：27名）

使われなくなった道路は、荒れています。2年程前に訪ねた時は、アカマツやイイギリ、マルバノキ等が伐られて痛々しかった。大木のイイギリは健在で、他にも実をつけているイイギリが何本かあった。小原村の加藤茂先生や尾嶋先生が伐らないように頼まれたとのことでした。

大木のイイギリがあるそれより奥の道はゴミ捨て場になっているから見ない方がよいと云われて引き返す。帰路、イイギリの葉を拾って様子を見たり、葉痕を見たりした。ゴミは車が停められるスペースがあると、ほとんどの個所で捨てられている。どうしてこうなったのかといつも思います。



1/16 東山公園 「紅葉と木の実」

ここでは指導員は毎月交替で実施され、今月は太田さんでした。コースに沿って歩き、少し広い所で全員輪になって座り、太田さんから「もみじ」と「冬」の語源について説明

を受けました。「植物についてあまり知識がないので、言葉で補います……」と謙遜されながらの話でしたが、心に残りました。歩きながらではなく、座って聞くことがとても良かったと思います。

その後、テーマにそって、紅葉を愛でながら木の葉、木の実を集めてコースを歩き、集めた木の実を白紙の上に並べて観察し、木の葉には墨を塗り、紙にスタンプのように写して楽しみました。この時も、白い紙を囲んで車座になつたので、参加者の顔を見渡すことが出来ました。これ位（14名）の人数が観察会としては適当ではないかと思いました。

他の指導員の2人の方も要所々で太田さんを助けておられ、よいチームワークの観察会、そして良い準備のなされた会で、初めての私も気持ち良く参加出来、学ぶことの多い一日でした。

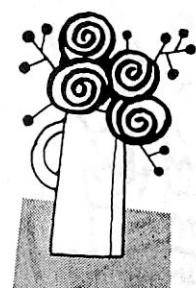
11/23 相生山緑地

「落ち葉のステンドグラス風」

相生山緑地には始めて行きましたので、勝手が分からずに遅刻でしたが、一行に追い着くことが出来ました。

今日の指導員は鈴木さんという方、植物について詳しい方でした。粗方、葉を落とした樹の中に、褐色の葉をいっぱい付けたのがありました。「やまこうばし」とか。離層の形成されにくい木で、そのため落葉せずに残っていることを知りました。三種類の落ち葉を用いてのジャンケンは、始めて合った方と打ちとけるチャンスとなりました。

今日のテーマの「落ち葉のステンドグラス風」は、予め用意された色々な落ち葉、絵の所々がくり抜かれた画用紙等で、大人も子供も一生懸命に作品を作りました。この外にも、皆



が作業できる様にシートやダンボール等も含め、30名近い参加者のために種々準備して下さった指導員の方々に感謝します。

尚、私は最後列に並んで歩きました。一番最後に居られた指導員の方は、昆虫に詳しい渡辺さんで、途中、桜に寄生する虫についての説明をして頂きましたが、前を歩かれた人々は残念ながら聞くことができませんでした。参加者が多数の場合は致し方の無い事なのでしょうか。

1/10猪高緑地 テーマ「探検」？

当日の参加者の発案で、猪高緑地を全部歩いてみることになりました。途中、「アラカシ」と「シラカシ」の見分け方を教えて頂きました。

コース脇の「タカノツメ」数本が枯れたり、枯れかかっていました。理由は不明だそうです。池から一御岳山一尾根コース一太陽の家一猪高南緑地を見て歩きました。池には、コサギ、アオサギなどのサギ類とカイツブリのみで、鴨類は見あたりませんでした。餌のせいでしょうか。田んぼの向こうの小湿地には鳥類が集まるとのことでしたが、この日は何も居ませんでした。

太陽の家から南緑地公園のコースでは、道路工事が行われていました。緑地が狭められていく様を見せられるのは悲しい事です。

今回は、コースをたどることに終始し、観察はあまり出来ませんでした。ここの観察会は、期日変更があるようですが、参加者からみれば変更せずに、第一なり第二日曜にきちんと決めていただければと感じました。

感想

この他、10月26日の平和公園の観察会にも参加しました。4カ所の観察会に出席してみて、それぞれの会

に個性のあること、私は一体何処に落ち着けるのか、今しばらく他の会にも出てみようと思っています。

◎ ◎ ◎ ◎ ◎

10/25, 11/22 森林公園こども観察会

11/2, 12/7, 1/4 森林公園

11/9, 12/13 大森湿地

11/5 海上の森

11/30 定光寺

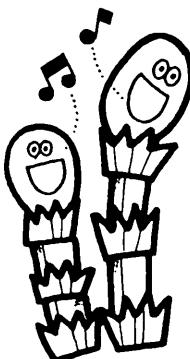
1/14明徳公園

今回初めて応募して、すぐ指導員になってしまった人、研修に何回も申し込んでもなかなか選ばれず、観察会の常連になっているような人まで幅があり、観察会での感じ方が違い過ぎるとおもいます。私も常連タイプでやっと研修を受ける気になり、指導員の仲間入りをしました。

資格の有無で変わった事と云えば、自覚をもった事と自分自身で観察会をしようと思えば出来ることでしょうか。研修で特に感じた事は、いかに五感を大切にし、磨き上げた感性豊かな生活を送る化かと云う事だと思いました。とても有意義な研修で、私の求めていた観察会はこれだ！と喜びました。

あちこちの観察会に出て気が付いた事は、参加者の質問に詳しく説明してくれる素晴らしい知識と豊富な経験を持つ指導員でしょう。タカのような鋭い目を持つ指導員（人の気が付かない小さな虫でも探してしまう）、かすかな鳥の声さえ見逃さないウサギの様な耳を持つ指導員、水の匂いをすぐ嗅ぎ当ててしまう湿地の大好きな指導員と様々ではあるものの、皆熱心で一生懸命です。観察会をすることは、知識と、探求心と、熱意と、自然が大好きでないとやって行けないのだという事を強く感じました。

こども観察会については、興味を持たせ、おもしろく遊びを取り入れながら、決して教育的にならない事、自分も楽しみながら笑い



ながら終える事、また会おうねと仲良しになることだと思いました。

それらの観察会は、観察会をするための下調べと周到な準備なのでしょう。毎回参加者の楽しそうな笑顔があるから続けられると思いました。

残念だったのが1月24日に星の観察会があったのですが、天候不順のため中止になったこと、また、なかなか一人では恐ろしくて行けない場所での観察会、ムササビ、ホタル等の夜の観察会には感謝しています。そして、ぶた汁や木の実のジャム（シャシャンボ）のおいしかったことが印象的でした。



10/26 平和公園 (県委託観察会)

観察指導員になって、第1回目の自然観察会がありました。どのくらいの人が参加するのか期待しておりましたが、参加している人達は、10月の講習会で見た人が多く、ひさびさに会い、うれしくもありましたが、一般参加の人が少なく感じられ、少し残念な気がしました。

自然観察会では、グループでの行動でしたが、いろいろな人から、いろいろなことを教わり、楽しく過ごすことができました。私はただついて歩いているのですが、人が多いと、いろいろなことを見つけて（発見して）くれまして、自分が気づかないような事がたくさんあり、人によって見方がいろいろあることを実感しました。

11/ 3 相生山緑地 「里山の管理研修会」

まず名古屋市内にこのような、里山的空間があることに驚きました。市内では残された自然？ではないだろうか。

「里山管理」とは、最近よく聞く事が多く、私もよく知りたい内容でありました。そのためにこの観察会は天気も良かったせいもあり、とても勉強になりました。管理するた

めには目的（どんな目的で管理していくのか。その目的によって管理方法がいろいろとある。）が必要であることがよくわかりました。けれども、その目的が本当によいとか、よく検討、議論すべきものと考えられました。

11/ 6 牧野ヶ池観察会の記録発表

(女性会館にて)

やはりいろんな人（私の母くらいの年齢の人達）が集まって、最近の自然に関する話をするというのは、おもしろいものである。地球規模的な環境問題から、小さな話（冬芽の話など）まで、私は聞いているのみでしたが、参加者全員が自然環境に関わる話を楽しく会話されているのは、今まで体験できることではなかったのでたのしかったです。

総括（今後の観察会のあり方）

自然観察会に参加しておりますが、今はほとんど聞いているだけであります。いずれ皆さんにお教えできるようになることを願っております。こんな私であります……

観察会には、一般の参加が少ないように感じられます。特に若い人、子供の参加が少なく感じられます。もっと彼等が参加しやすいようにできないのか考えていきたいと思っています。「環境教育」という言葉が聞かれるようになりましたが、これらがもっとも必要なのは、子供たちではないかと思います。彼等がもっと普通に（子供達だけで）参加できるようなシステムができるものでしょうか。（自分で考えろ！）



10月10日の指導員講習会を受講して3ヶ月になりますが、その間に段戸原生林散策、碁盤石山トレッキング、遠見山の自然、幸公園の自然、葦毛湿原の冬の自然、と観察中です。

11/16 遠見山

今回始めて、指導員として自然観察会に参加させて戴き、自然を見る目が少し変わった様な気がします。先輩指導員の方々のご指導により、遠見山の里山としての自然について勉強させて戴きました。

自然に対する関心が社会的に出てきた現在、一般的の参加者が意外に少なく、この会の宣伝不足を感じました。

12/20 幸公園 (豊橋市民大学)

事前に、自然環境講座で知識を得ていたので、当日の観察会も多数の参加者があり、又幸公園の自然について知り尽くした担当者（ホーム観察地）の観察会であり、きめ細かい説明で参考になった。

1/18 葦毛湿原 (豊橋市民大学)

事前に、自然環境講座で、植物・昆虫・鳥と三回に分けて知識を得ていたので、この観

察会でも参考になった。

今回の観察会は、貴重な植物の保護活動を目標としたものであり、自然観察を通じて自然に関する関心を広く一般に広めるために行われた。

感想（今後の観察会のあり方）

観察会の経験が少ない為、あり方についての考え方を言える立場では有りません。このため、一般の自然愛好家を広めるためにはどうしたら良いか、私の経験を基に置き換えます。

- ・観察会を行う前に自然観察講座を一般対象に行い、自然に対する関心を広める。
- ・トレッキング（山歩き、約8～10km）（又はウォーキング（約8～10km）を兼ねた自然観察会。

定例自然観察会

場所	所在地	時期	集合	備考
大森湿地	守山区	第1日曜	守山環境事業所前 9:30	年間
猪高緑地	名東区	第2土曜	名東生涯学習センター 9:30	期日変更あり
大高緑地	緑区	第2日曜	第1駐車場売店前 9:30	年間
平和公園	千種区	第2日曜	新池北・清風荘入口 9:30	年間
東山公園	千種区	第3日曜	東山植物園前 9:30	年間
明徳公園	天白区	第4水曜	明徳公園北(即ドック前) 9:30	年間
相生山緑地	天白区	第4日曜	梅野公園東の運動場 9:30	
東谷山	守山区	毎月最終	フルーツパーク本館 9:30	年間
森林公園	尾張旭	第1日曜	森林公園案内所前 9:00	年間
定光寺	瀬戸市	第2土曜	定光寺山門前駐車場 9:30	年間
善師野	犬山市	第4土曜	名鉄広見線善師野駅前 9:00	年間
閑荔渓谷	額田町	月1回	渓谷入口駐車場	

*あわててまとめたもので不完全ですが、後日整理したものを出します。（問合先事務局）

（他に築水池、境川河口、平戸橋、赤塚山、知多半島各地でも実施しています。）

観察会で困ったこと、失敗談

降幡光宏（知多支部）

人生と言つていいか生活と言つていいか失敗はたくさんあるものであるが、いつまでも気にしていたらノイローゼになってしまいます。何事もほとんど忘れてしまいます。それでも最近のことでもまだ忘れていないものがありますので紹介します。

東海市に横須賀新川という河川があり、以前下流で川の生き物の観察会をした時、水生生物が豊かだったので、公園が近くにある上流で自然観察会を計画しました。横須賀新川は毎日通勤で川を横切り眺めています。また、集合場所にした公園も通勤の時にすぐ脇を通るため状況が分かり、最適の場所と確信していました。いよいよ実施日の前日に徒步による下見をしました。公園は駐車場もあり問題なし。公園から川までの道中は道端の野草や水田の生き物を観察しながら行くのに問題なし。目的地の川に行った所で「ガーン」。下に降りる階段が近くにない。土手から川床まで3石位あり、梯子を使うには高過ぎる。そこであきらめて少し離れた

知多市の野崎川を見に行きました。降りる階段はないが土手から川床まで2石以内であるのでここでやることにしました。しかし、降りてタモを入れなければ生き物の様子が分かりません。早速、家にもどり梯子とタモを持参し、試してみました。ドジョウとブルーギルがタモに入りましたので観察場所を変更することにしました。当日は変更した場所が離れているので車で移動し、現地は堤防部分が広い農道となっていたので駐車場として利用しましたが、稲刈りや田植えなど農繁期は農家の人の通行の妨げになるだろうと思いました。

川での自然観察会を実施する場合は、必ず事前に下見調査をしなければいけないことが分かりました。他の場合も観察予定地が少しの間に様子が大きく変り内容や場所を変更しなければいけなかつことがあります。また、ほとんどの自然観察会には自家用車の参加者が多いので駐車場の心配もあります。いずれにしろ事前に安全と駐車場等の確認が大切であると思います。

お便りコロナ

里山と環境教育はどちらもタイムリーな、大切な話題（協議会ニュース66号）で、おもしろく読ませていただきました。篠田さんが書かれているような自然観察と環境教育とは違う、という視点は私も賛成ですし、そういう視点で自然観察を考え直すこと、あるいは自然観察のなかから、環境教育といえるテーマ性を打出していくことが必要だろうと考えています。私が



仕事をしているような博物館ではそれは一定の形にはしつつあるように思いますが、自然観察の場ではまだ本当の動きにはなっていないようです。議論ができる機会があればいいなと思いました。

佐藤さんの連載も終わりましたね。刺激的な記事でした。

布谷知夫（守山市）

自然教育活動とビオトープ園つくり

朱雀英八郎（名古屋支部）

★自然観察会活動

観察会探鳥会は野外で一般に都市周辺では川池、森、丘陵のほかに雑木林、里山を含むのが普通である。私たちは公園予定地で観察会を行なっているが、フィールドが知らないうちに開発されたりする。継続して観察会を行うとき、リーダーが説明し名前を知るだけではマンネリ化する。そこで、毎回コースを変える、ポイントを中心にするなど工夫を要する。野外クッキング、たき火（都市部ではたき火すらできなくなっている、たき火セット）クラフトつくりなどへの展開が求められ取り組んでいる。

30、50年前と何が違うか。昔は当然のことが今では貴重でさえある。

自然は意識的に関わらないと見逃すことも多い。不登校とかいじめも自然のふれあいが欠けた延長にあるのではないか。



どの学校にも自然好きな先生がいて野菜園など親しめるよう工夫が欲しい。また自然の話題は高齢者とヤングとの交流にも手ごろである。青年の自然講座に関わり、いろんな工夫をしながら呼びかける中で、何人かは自然の良さ楽しさを見つけてる。山に木を植える活動に参加する情熱を持った女性たちも現れ今後に期待したい。

青年が育つにはリーダーも一緒にになって行動し共に学ぶ姿勢、教育として体系化、目標プログラムの確立が求められようが、画一的なレベルを求める詰め込みでなく、多様な感覚を見つけることを大切にし、リーダー講師がその時間だけでなく意識的に関わる中で自分以上の力を出す仲間を増やすことができている。

環境教育は自然への豊かな感性が育つことが求められ、興味好奇心を持ち続け発展させることでもある。

★子どもの成長に自然の果たす役割

昨年、社会教育の全国集会でも子供を守る会会長の太田さんが、現代の日本の豊かさの中で一番失ったものは自然で、子どもは自然の中で遊び育つ、仲間と分かちあう心をはぐくむとの指摘があった。まさに同感で子供達の未来がどうなるか考えると危機的とさえ思う。

身近な自然がなくなったと言われるが近くに河川敷などあっても遊ばない。親も危ない、汚いと言うがそうでもない。私たちは川で遊ぶ、水生生物を見る機会を毎7月に自然保育の子どもたちと行っている。特に幼児期に自然と接する経験を大切にしたい。カブト虫でも成虫は欲しいが幼虫はグロテスクと身近な自然を敬遠しがちだ、セミ（7月には地域でセミの羽化観察会をしてる）、トンボとりなど子どもがもっと野外でいきいきして欲しい。その上で命の大切さをと思う。



★身近な自然、田畠のある自然

かつては周りに自然があり、子どもが遊び育つ場であった。何も観察会なんてしなくても身近だった。身近な自然は子供にとってかけがえのない育つ場である。

今ある自然をそのまま残せと言われたりするがそとはならない。ほっておくと竹、ササが増えて木が枯れる。増えている休耕田などの活用をすべきだ。自然を守ると言うとき農林業との関わりを無視できない。自分なりの自然観が問われよう。

自然に接する、自然の良さを知る、自然を守る、育てることへの関わりが自然保護へつながり、特定の種だけでなく種の多様性が自然の良さではないか、人と自然の関係は対等でなく、人は生き物の命で生きれる存在でもある。



★ビオトープ園つくり

ビオトープが言われホタルの里、トンボ王国がつくられたりするが、多様な生態系、生きものの生息空間とは少し違う。またそのまま残すと言うより、多少手を加え私たちの望ましいあり方、考えて行うので、自然をどうとらえるかが問われる。

私たちはビオトープ園として耕作し、野菜や七草を育てたりしている（農薬無し）。菜の花の一部は摘んで食べるが、残りは生きものたちの分でシロチョウが育つよう残しておく。菜の花があるからいろんなチョウもくる。サツマイモ、トウモロコシもキジやイタチに食べられたりする。特定の種より豊かな生態系として残したい。しかし毎年様子が変わったりするが、いろんな工夫をし、農林業などに関わる中の保護が大切といえよう。

★指導員の傷害保険について

8月の戸隠高原で火傷した件で保険の手続きをとった。観察会中ではなくその準備、3日続けて参加し宿泊中のことであったがNACKSJが確認し保険会社の書類をもらい申請した。運営経過報告、事故報告書、診察した記録診察券など証明するものがいるので面倒だった。

事故は夜テントの中の下方に漏れていたガスに気付かず点火。（ガスの入れ換えを雨だったのでテントの中で行ったのがまずかった）とはいっても手足の露出部分だけがやけどになった程度だった。当日は痛かったがあと一皮めくればもとに戻った。村の診療所でひげのドクターと看護婦さんの手当を受け帰宅し近くの医者でも手当を受けた。

通院した日だけ一日2000円出た。国民保険などとは別で、スポーツ保険も同様な手続きのようだ。

★環境教育と自然観察

環境教育とは身近な自然からゴミ美化、地球環境まで分野は広い。知識だけでなく行動へ導くものが求められる。

教育的には目的、手立てを明らかにして継続的組織的に関わり、終わってからの評価まで意識的になされが必要であろう。

教育が画一的な教え込みではできないことを環境教育は教えてくれる。知らぬうちに身につくことが本物。そして自分なりの考えを持つことが大切である。これらの活動は自然に親しむ活動として農林業など応用にも関わることから自然保護、観察会活動を超えているとも思う。



アセスは万能じゃない

近藤盛英(名古屋支部)

環境アセスを行えば、この場所が生物の貴重な生息空間であることが実証される。アセスをすることによって、事業計画は見直され、うまくいけば（？）事業は中止にできる。環境アセスについてはこうした期待を持っている人が多いのではないかでしょうか。しかし、現実を見るはどうでしょう。

環境アセスについて、細かに論じるには紙面が足りませんから、ここでは環境アセスとはどういうものかについて、平成9年6月に公布された『環境影響評価法』をもとに、その概要と私なりの環境アセスについての意義を述べてみたいと思います。

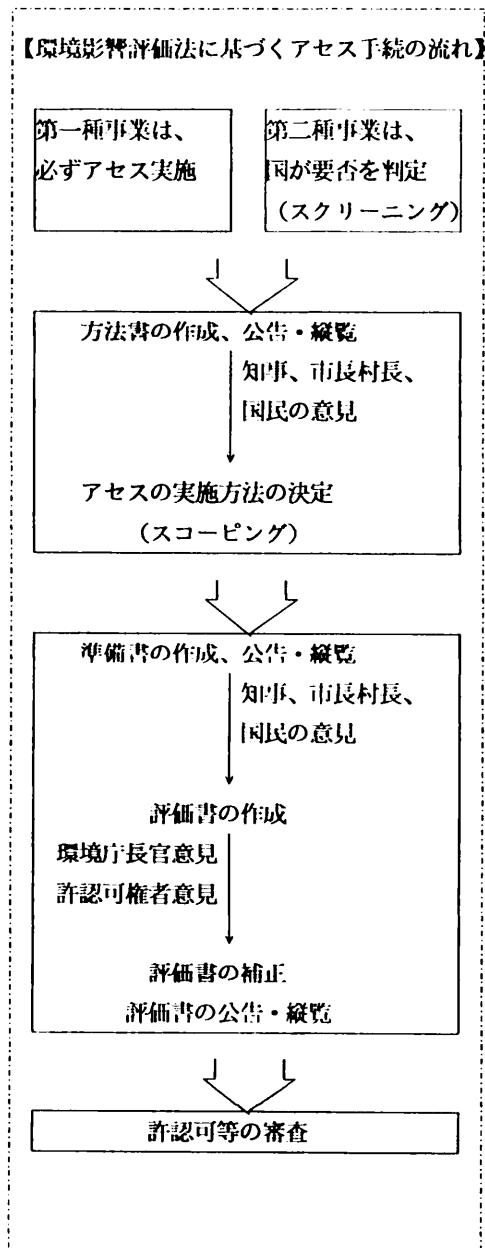


【環境アセスメントとは】

環境アセスメントとは、大規模な開発事業を行なう際に、事業者自らが、その影響について事前に十分調査、予測、評価を行い、地方公共団体やその地域の環境を知っている人々の意見を聴きつつ、環境保全への配慮をする仕組みです。

法律では、道路、発電所等大規模で著しい環境影響のおそれがあり、国が実施し又は許認可等を行う事業を対象としています。一定規模以上の事業に必ずアセスを義務づけるとともに、その規模に準ずる事業については、アセスの要否を個別に判定する仕組み（スクリーニング）を導入しています。

また、手続の早い段階で、事業者は、方法書（アセスの内容を決めるもの）を作成・公表し、調査の方法について地方公共団体や住民等



の意見を求ることとしています。（スコーピング）

事業者は、準備書の作成・公表、意見聴取を行い、許認可等を行う行政機関（許認可権者等）の意見も踏まえ、評価書を作成します。この際、環境庁長官は、必要に応じ、許認可権者等に対し意見を述べます。

許認可権者等は、許認可等の審査に当たり、評価書に基づき、適正な環境配慮がなされているか審査を行い、その結果を併せて判断して処分等を行います。

環境影響評価法は、事業者が調査、予測、評価を行う中で、意見を聴いていくための手続法ということができます。これは手続きに乗れば事業は進行していくことを意味しています。環境アセスは事業者にとって、面倒な調査をしなければいけない、手続に時間がかかるということもあります、手続きに乗りさえすれば、住民への周知等も新たに対応を考える必要もありませんからその点はやりやすさもあるはずです。

【環境アセスの手続きに入るとき】

アセスの実施時期はより早い時期が求められるのですが、一方でそれは、早い程計画の熟度が浅いということになります。計画の熟度が浅いということは、予測を行う際の不確定性が増すことになります。このため事業者が実際の手続に入るのは、計画がほぼ固まった段階と見るべきでしょう。

事業者は、手続きに入れば調査のやり直しなどの手戻りは避けたいでしょうから、必要とあれば方法書の公開前に環境の予備調査を実施することもあるうかと思われます。また、方法書の公開は調査の手戻りの防止や、早い段階での環境保全上の問題が明らかになると言われていますが、住民サイドから見れば、方法書が公開された後から調査の中身について文句をつけてくるなるということも意味していますから、早い段階から注目していくことも必要でしょう。

【生物の環境アセス】

環境アセスで対象となる環境項目は、大気汚染、水質汚濁、騒音など公害関連の項目が中心であり、事業を実施しても環境基準をクリアできるかどうかが論点となることが多いようです。しかし、生物については環境基準はありませんから、その代わりに貴重な植物や動物がいるかとか、貴重な群落や群集があるかということになるようです。生物は文化財とは違いますから貴重かどうかだけで評価されるのはむずかしいように思えます。生態系や多様性という視点、さらには人との関わりについての評価が今後問われていくのではなかろうか。

【環境アセスへの期待】

環境アセスは、ある事業を実施した場合に、環境にどういう影響を及ぼすかというもので、マイナス面が強調されやすいものです。ところが、本来、事業計画は、環境面から見ただけで決定されるものではありません。経済効果などプラス面も含めた社会影響（環境）についても留意し、総合的判断が求められるものです。それにもかかわらず、現行の環境アセスに、計画の必要性だと、事業の善し悪し、事業場所の適否を問うてみても見当違いのような気がします。環境アセスは万能ではありません。計画の是非などは、本来もっと別の所で論じられるべきだと思います。

それでは環境アセスは無意味かと言えば決してそうではありません。事業を実施するうえで環境への影響を最小限に抑えるにはどうしたらよいのか、これはアセスを実施しなければ十分検討もできないからです。法律が施行されるのは来年です。それまでに、私たちは環境アセスにもっと参加していくことができるよう、学んでいくことが必要ではないでしょうか。

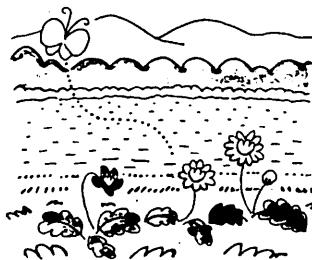


会員紹介

私と自然保護

水野 晴（名古屋支部）

名古屋で生まれ、育ち、働いてきた私は、自然の中で暮らしたこと�이ありません。しいて言えば、学童疠開をした付知町で過した6ヶ月ですが、近くを流れる川は、入浴や、洗濯の場であり、寮を取りまく山々も炊事用の薪を集めに行く場で、慣れないわらじをはき、はいこを背負っての山行は苦痛以外の何物でもありませんでした。



この様に、自然とは縁遠い生活でしたが、庭があり、花や緑はもちろん、虫、鳥等小動物もいる自然もどきの中の生活は自然への関心を育ってくれました。時が経て、自分の人生を楽しむ事が出来る様になり、自然の中へ出られる様になり、「もどき」では得られない美しさ、不思議さを知り、その虜になってしまいました。自然観察指導員になった動機も自然保護に情熱を持っての事ではなく、“自然って何だろう、自然を楽しむにはどうしたらいいのだろう、それが解るので”という不純なものでした。

色々な職業につき、それぞれが異なる人生觀をもち、利害が相反することのあるこの社会では、自然保護はとてもむづかしい問題をかかえています。干渉の埋め立てに反対しながらもゴミを出さざるを得ず、ダム建設に反対の署名をしながらも電気がなくては一日も生活が成り立ちません。世界中の人々は皆文化的生活を送る権利もあります。ましてや先進国の人々が低開発国の人々にそのつけを廻すことなども許されません。

自然は大切だ、守らなければと訴えることも大切ですが、自然が素晴らしいことを感じてもらい、自然が壊れやすいことを理解してもらい、小さな命を慈しむ心を持つ自然大好きな人間が一人でも増えることが自然保護につながると思います。むづかしい活動は出来ませんが、自然の営みを理解してもらえるような活動を、そして日常生活の中で出来る小さな努力を続けてゆこうと思っています。これが自然を破壊し、環境汚染をしなければ生きてゆけない私の、自然への償いであり、また、生かされていることへの感謝の気持ちなのです。

春待ち 夏の夜待ち

鈴木ひろ子（名古屋支部・相生山自然観察会）

ある秋にスズメウリを観た。なんと愛らしい実ではないか。残念ながら見つけた時は蔓は細く糸状になって枯れていたし、葉もよれよれでしっかり観察することができなかった。

もう少し大きなカラスウリのレース状の花はご存知の方は多いと思うが、何故にレース状がカラスウリに取って有利なのか、日没後の時間に関係しているのは、光の関係か温度の関係なのか。

繁殖方法は、あの苦いウリは鳥にとって美味ではないと推察する。また、有る場所には沢山繁殖している。



会員紹介

地下茎のイモの大きさによりウリの実の数も比例すると思うが、茎の観察を心待ちにしておる。とゆうのは回りに捕まる枝がない場合でも垂直に幾筋にも上っている。

スズメウリの場合はどうなのか。温度で咲くのか光で咲くのか。

書物で調べるとは遠いそこへ出かける時間作りと現場は、時として私に鞭を与え、また時間作りをしいられる。

未熟な私ならではの楽しみがいっぱいである。



だいこん・いろ・いろ

竹内秀代（知多支部）

「だいこんの葉っぱって、上の方が大きくて、下の方になると小さくなっているね。」「だいこんには、小さいよこすじがいっぱいあるね。」「葉っぱが広がって、下にたれ下がっているね。」などなど。ポケモン中毒で、草花にはほとんど興味のない彼らも、自分で種をまいただいこんには、いろいろ気がつくことができたようだった。この話し合いの後、画用紙に同じ大きさに描くということをした。じっくり観察する機会はあまりないのだが、こまかいところまで良く気がつき、どの子もすばらしいだいこんを完成することができた。

2年生は、生活科といって、昔の理科社会をドッキングさせたような勉強をする。夏野菜のトマト、キュウリなどはよく育てるのであるが、冬場は畑があいてしまう。そこで、比較的世話の楽なだいこんを育てることを考えた。9月はじめに種をまけば、2回ほどの追肥で無農薬で十分育つ。少し大きくなってきたら間引きをし、家に持ち帰って汁の実に。大きくなったらじっくり観察して絵を描いて、これもおでんや汁の実やつけものに、と、家庭でもだいこんのことがよく話題にのぼったと、後で聞いた。

残った小さいだいこんは、たくわんときりばしだいこんにと、だいこんの利用法は実に多い。そして、昔の人の生活の知恵も知り、体験することができる。たくわんが、こめのぬかと塩で作られているということを知らないのはもちろんのこと、切り干しだいこんを食べたことのない子が多いのにも驚く。

みんなでだいこんを細くついて、（つくってわかりますか）梅干しを干す簾に広げたところ、つまみぐいをして「うまい」を連発する子どもたち。だいこんを生のまま食べるなどという『本物の味』にふれる機会がないのかもしれないと、思った。



事務局から

[行事結果]

★ 基礎研修会「クモの生態」

〔期日〕平成9年12月13日

〔場所〕中小企業センター

〔講師〕須賀瑛文先生 (出席18名)

〔内容〕

クモは、よく見られる割に馴染みの薄い分野です。そのためか、いつもより多くの方が参加しました。室内で身近なクモの分類や生態を、スライドをmajieて説明してくださいました。

10年度には、野外でのクモの研修を是非やりたいと思っています。

★ フォローアップ研修会 ①

「自然観察会の運営について」

〔期日〕平成10年1月10日(土)

〔場所〕名古屋市公会堂

〔講師〕佐藤国彦 (出席12名)

〔内容〕

フォローアップ研修会は、新しい会員や自然観察の基礎的な知識を学びたいという方のための研修として、今年から始めたものです。とはいえたまでも自由に参加して、知識の交換をしたいとも思っています。また、会員の交流の場として、各支部の主催でも実施する予定ですので、多く方の参加をお願いします。

今回は、その第1回として、自然観察指導の考え方とか観察会の運営に当たってのポイントを内容としました。

★ フォローアップ研修会 ②

「自然観察指導について」

〔期日〕平成10年3月1日

〔場所〕東山公園植物園周囲

〔講師〕佐藤国彦 (出席13名)

自然観察会でどのように指導したらよいか、特に自然についての知識のあまりない方を対象

として、テーマの見つけ方、扱い方を整理できなかつて開きましたが、講師の力量不足で成功とは言えませんでした。普通の観察会のような結果になってしまいました。

★ 理事会

〔期日〕平成10年2月28日 13:30~16:25

〔場所〕名古屋市公会堂 (出席13名)

〔内容〕

(1) 事業実施報告及び決算

事務局からの報告。

(2) 協議会の運営について

◎役員の選任

各部会長、会計の任期が終わったことによる改選ですが、ほとんどが再選で、会計のみ井城さんに変わりました。

◎会費徴収

平成10年度は名古屋・尾張・知多・西三河支部では支部費と協議会費を同時に支部から依頼する予定です。

◎支部配分金

協議会から支部へ総額 360,000円を事務費として配分します。

◎県委託観察会の保険料

県委託観察会の保険料を参加者から負担することに、県の指示で決まる予定です。

(3)規約等の改正案について

規約では、事務局の所在地を県庁から変えて日進市(運営部会長宅)とする案で総会にかけることになりました。

経理規定の特別会計に関する事項を整備して、会が購入する図書を、会員向けで有償のものと、一般に有償で配布するもの(会員は無料)に区分することにしました。前者には「は虫類等の報告書」があり、後者として近く県が発行する「昆虫の観察」を買入する予定です。

(4)平成10年度事業

本年度の会の目標は、会員間や支部間の交流を強めることで、そうした行事を考えたいと思っています。事業は基本的には9年度と同様な内容となりましたが、調査は、ベイトトラップ調査を3年間実施することとなった他、全体として里山の管理についていろいろ検討してまとめたいと考えています。

[平10年度役員名簿]

12月から2月にかけて行われた各支部の総会と協議会の理事会で、次の方が今年の役員に決まりました。

- ・会長：大竹 勝
- ・副会長：竹内哲也・中西 正
- ・監事：水鳥富人・篠田陽作
- ・運営部会長：佐藤国彦 会計：井城雅夫
- ・普及部会長：大谷敏和
- ・調査部会長：北岡明彦
- ・編集部会長：近藤盛英

【名古屋支部】

- 支部長：浅井聰司 副支部長：武田 篤
事務局：堀田 守 会計：白木幹司
顧問：朱雀英八郎

【尾張支部】

- 支部長：松尾 初 副支部長：長谷川洋二
事務局：鬼頭 弘 会計：富山 茂

【知多支部】

- 支部長：加藤寿芽 廉務・会計：降幡光宏

【西三河支部】

- 支部長：山原勇雄
副支部長：三津井 宏・原田 勉
運営：水鳥富人・安井貞夫 会計：三田 孝

【東三河支部】

- 支部長：丸山 嵩 副支部長：間瀬美子
運営：影山博史 会計：鳥山けい子
監事：高橋康夫

【奥三河支部】

- 支部長：石川静雄 副支部長：鈴木 隆
幹事：杉山 茂

会員異動

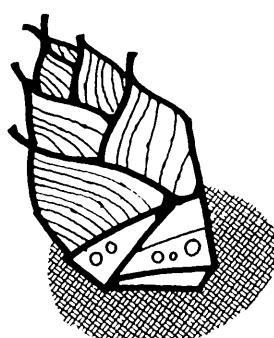
【加入】

- ・櫛田雅子 NO.14451 (尾張部部)
491-0354 一宮市萩原町朝宮字茶園
1006-1 レインボー萩原 604
(0586-69-1696)
- ・米沢 茂 NO.13682 (西三河支部)
446-0001 西尾市里町北大道寺 23-1
ジョリヴィ安城里町 602
(0566-97-2321)
- ・吉川泰司 NO.14600 (名古屋支部)
458-0013 名古屋市緑区ほら貝 1-377
(052-876-8401)
- ・西村良男 (奥三河支部)
441-1317 新城市有海字稻場 16-1
(05362-5-0765)

【脱退】

- ・伊藤英夫 (西三河・奥三河支部)
- ・岩山正光 (尾張支部)
- ・近藤清隆 (名古屋支部)
- ・鈴木啓章 (東三河支部)
- ・田中 博 (名古屋支部)
- ・内藤裕次 (東三河支部)
- ・深川芳孝 (知多支部)

* 近藤清隆さんは、会設立当初からの会員でしたが、死去されました。やさしい笑顔を想い出します。御冥福をお祈りします。



行 事 案 内

☆「協議会総会」

期日：平成10年3月22日（日） 13：30～16：30

場所：産業貿易館（地下1階第2教室）（地下鉄「市役所」駅下車南西へ徒歩10分）

・内容は、機関誌送付文をご覧ください。指導員同士の交流のために多くの方の参加をお待ちしています。

☆フォローアップ研修会「花の構造と集まる昆虫」〈西三河支部担当〉

期日：平成10年4月29日（水・休）

場所：矢作川 集合：愛環状鉄道「中岡崎駅」前9：00（名鉄「岡崎公園前」駅近く）

・花の巧妙な仕組みと集まる昆虫の関係を観察してみましょう。
(西三河支部以外の方も参加してください。午前中のみ。)

☆フォローアップ研修会「土壤生物の観察」〈名古屋支部担当〉

期日：平成10年5月30日（土） 13：30からの予定

場所：名古屋周辺の予定

★問合せ先：いづれも佐藤（☎05617-3-5674）まで

※編集後記※

守山市の布谷さんからお便りをいただきました。この協議会ニュースは一方通行の通信が多いため、うれしく拝見しました。私が編集を担当してからほぼ2年になりますが、会員の皆様がニュースを読んでどのように感じておられるのかわからぬいため、毎号一抹の不安も感じながら編集作業をしています。

ニュースの内容について、あるいは協議会について、ご意見、ご感想、その他質問等何でも結構です。お寄せいただければ協議会ニュースで取り上げていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

我が家の沈丁花が香しい匂いを放ち始めました。もう春です！

(近藤)

— 目 次 —

自然観察会に参加して	1
(新しい会員の感想)	
アンケート④-2 観察会で困ったこと	6
お便りコーナー	6
自然教育活動とビオトープ園づくり	7
アセスは万能じゃない	9
会員紹介	11
水野晴、鈴木ひろ子、竹内秀代	
事務局から	13

